

平成26年度病院医学教育研究助成成果報告書

報告年月日：平成27年4月3日

研究・研修課題名	箱庭療法学会第28回大会・ワークショップ
研究・研修組織名（所属）	精神科神経科
研究・研修責任者名（所属）	高野 由美子
共同研究・研修者名（所属）	林原 実 佐々布亜希子

目的及び方法、成果の内容

①目 的

箱庭療法は、1929年にイギリスのマーガレット・ローエンフェルドによって考案され、その後スイスのドーラ・M・カルフ氏によってユング心理学を基盤にして心理療法に用いられる形に確立された。箱庭療法とは、砂の入った箱の中に自分が置きたい玩具を並べていくことで言語化できない心の深層を表現させるというものである。このような非言語的な表現方法は、言葉ではどのように表せば良いのかわからないような曖昧な気持ちや、心のより深層にあるため言葉にはできない心の動きを、視覚可能な形で表現することができるため、深い部分での心の動きを捉えることができ、子どもだけでなく大人に対しても用いることができる有効な療法である。しかし箱庭で表現された作品をどのように解釈していくのかは非常に難しいところであり、継続的に箱庭療法やユング心理学について学んでいくことが重要である。本研修に参加することにより、箱庭療法をより適切に、効果的に治療に用いることを可能にする。

②方 法

平成26年10月4日・5日に開催された箱庭療法学会第28回大会・ワークショップに参加し、箱庭療法やユング心理学についての知識や技術についての理解を深めた。

10月4日に行われたワークショップは『事例から箱庭療法の基本を学ぶ』（講師：岡田康伸先生：京都大学）と

『生成する共時的構造として夢をみる2,3の視点』（講師：川寄克哲先生：学習院大学）に参加した。

10月5日には事例を中心とした様々な研究発表に参加し、最近の箱庭療法についての知識や新たな可能性について認識を深めた。

③成 果

- ・ユング心理学や箱庭療法についての具体的な理論や方法を学ぶことにより、現場においてスムーズに箱庭療法を用いることができ、多面的に治療を進めていけるようになった。
- ・学会発表において、箱庭療法を導入した多数の事例を見聞することにより、箱庭の多様な利用の仕方や進め方などについて学ぶことができた。
- ・表現された箱庭作品について、より多くの解釈の方法や視点を獲得ことができ、実際の治療におい

て箱庭作品からの心理的な理解をさらに深めることができるようになった。

- ・非言語的表現手段である箱庭療法について学ぶことで、言語的な表現力にまだ乏しい子どもや、様々な理由で気持ちを言語で表現できにくくなっている大人の患者に対しての有効な手段として箱庭療法を用いることができるようになり、様々な状態の患者へのアプローチの方法が拡大された。